

第三次千曲市総合計画策定市民会議



報告書
(概要版)

令和3年7月

目 次

ワークショップの目的と進め方	1
1. 目的.....	1
2. ワークショップのポイント.....	1
3. ワークショップの名称.....	1
4. 実施期間.....	1
5. 対象とした参加者.....	2
第1回まちづくりワークショップ	4
1. 開催概要.....	4
2. 話し合いの内容.....	4
第2回まちづくりワークショップ.....	9
1. 開催概要.....	9
2. 話し合いの内容.....	9
3. テーマ別近未来物語.....	11
参加者のアンケート調査.....	33

ワークショップの目的と進め方

1. 目的

第三次千曲市総合計画策定にあたり、市民ワークショップを開催することにより市民から意見を吸い上げ、総合計画素案に意見を反映させること。

2. ワークショップのポイント

将来像素案づくり型での開催

- ◆ 千曲市の近未来の将来像を描くという会議を目指す。総合計画の基本構想に係る将来像や基本目標の組み立てに役立てる。
- ◆ 将来像や基本目標に関する意見が示されることにより、計画の表現や施策の優先順位や重点化、表現など計画が作りやすくなる。
- ◆ 参加者自らの意見がどう生かされたかということが参加意義や達成感をもたらす。

3. ワークショップの名称

第三次千曲市総合計画策定市民会議 まちづくりワークショップ
－千曲市の未来を考えるワールドカフェ－

※ワールドカフェとは、会議室で日々繰り返される機能的な会議よりも、「カフェ」で行なうような、オープンで自由な会話を通してこそ、生き活きとした意見の交換や、新たな発想の誕生が期待できる、という考え方に基づいた話し合いの手法

4. 実施期間

スケジュール

4月 市民会議の企画、募集チラシ準備

5月 募集開始（チラシ配布）、プログラム作成、ツール準備

5月・6月 市民会議開催（2回） 土曜日 13:00（受付開始）～17:00（解散）

第1回 テーマ：「千曲市の良いところや魅力に気づいてみよう！」

【日時】5月29日土曜日（13:00開場）13:30～16:30

【狙い】千曲市のイメージを俯瞰し、既にある「千曲市の良いところや魅力」に気づき、それらを伸ばすためのアイデアを話し合うことで、「千曲市をより良くしていこう！」とする気運を高めると同時に、千曲市の長所を伸ばすためのアイデアや意見を吸い上げる。

第2回 テーマ：「こんな千曲市にしたい！」

【日時】2021年6月19日（13:00開場）13:30～16:30

【狙い】第1回の市民会議で出た意見をまとめ、テーマを提示し、ワールド・カフェ形式の分科会を繰り返すことで、千曲市の未来の方向性について話し合う。また、これらを通して「もっと大切にしたいこと」「参加してみたいこと」を参加者自らが提案し、より具体的に話を詰めていくことで、重要又は新たなテーマを共に生み出す。

5. 対象とした参加者

- 千曲市に関心のある方を対象としたが、近未来を担う世代である若者世代を出来るだけ募った。また、包括連携協定を結ぶ大学（市内出身者）の学生や市内高校生などにも声を掛け参加も募った。
- チラシや市報等で公募を行うとともに、まちづくり活動を実践している市民などに口コミで参加者を募った。

「まちづくりワークショップ」参加者の年代別構成

参加者の年齢別構成比は、20歳代が24.2%で最も多く、次に30歳代が20.9%、10歳代も12.1%あり、若者層が50%以上占め、幅広い世代に参加していただいた。

5月29日 年代別参加者数

単位：人

	回答項目	男	女	合計	構成比
1.	10歳代	3	2	5	10.4%
2.	20歳代	7	5	12	25.0%
3.	30歳代	8	2	10	20.8%
4.	40歳代	4	3	7	14.6%
5.	50歳代	3	3	6	12.5%
6.	60歳代	0	2	2	4.2%
7.	70歳代	4	1	5	10.4%
8.	80歳代	0	0	0	0.0%
9.	90歳以上	1	0	1	2.1%
	計	30	18	48	100.0%

6月19日 年代別参加者数

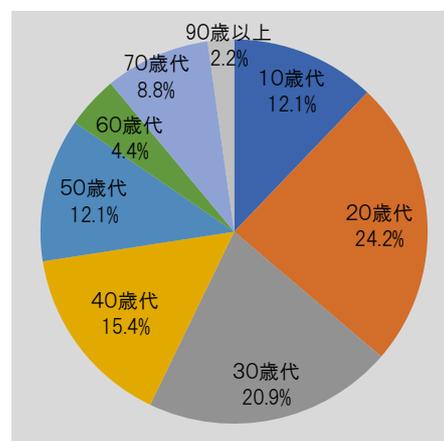
単位：人

	回答項目	男	女	合計	構成比
1.	10歳代	4	2	6	14.0%
2.	20歳代	7	3	10	23.3%
3.	30歳代	8	1	9	20.9%
4.	40歳代	3	4	7	16.3%
5.	50歳代	3	2	5	11.6%
6.	60歳代	0	2	2	4.7%
7.	70歳代	3	0	3	7.0%
8.	80歳代	0	0	0	0.0%
9.	90歳以上	1	0	1	2.3%
	計	29	14	43	100.0%

延べ年代別参加者数

単位：人

	回答項目	男	女	合計	構成比
1.	10歳代	7	4	11	12.1%
2.	20歳代	14	8	22	24.2%
3.	30歳代	16	3	19	20.9%
4.	40歳代	7	7	14	15.4%
5.	50歳代	6	5	11	12.1%
6.	60歳代	0	4	4	4.4%
7.	70歳代	7	1	8	8.8%
8.	80歳代	0	0	0	0.0%
9.	90歳以上	2	0	2	2.2%
	計	59	32	91	100.0%





ワークショップ まちづくり

第三次千曲市 総合計画策定 市民会議

千曲市の未来を考えるワールドカフェ

参加費
無料

千曲市では、本年度の第三次千曲市総合計画策定に伴い、市民の皆さんと市の将来を共に考える「まちづくりワークショップ」を開催します。会議は2回開催の予定です。カフェのような雰囲気の中で楽しく語り合いませんか？ワークショップで話し合った内容を、市の新しい総合計画に反映していきたいと考えています！

学生さんから子育て世代のみなさんの多数のご参加をお待ちしています

テーマ
「千曲市の良いところや魅力に気づいてみよう」

テーマ
「こんな千曲市にしたい！」

第1回 令和3年 5/29(土) 13:30～16:30 (受付: 13:00～)

第2回 令和3年 6/19(土) 13:30～16:30 (受付: 13:00～)

会場: 千曲市役所1階ガレリア (千曲市杭瀬下2丁目1番地) 主催: 千曲市 (担当: 企画政策部総合政策課)
定員: 各60名 (先着順) 対象: 千曲市の未来に関心のある方 ※どちらか1回だけの参加も可能です

「ワールド・カフェ」という話し合いの手法を用い、参加者の皆さんと一緒に輝く未来に向けて話し合います。
ファシリテーター: 松林和彦
千曲市在住・地域づくりプランナー

Q ワールド・カフェとは？
カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、メンバーの組合せを変えながら、4～5人の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる対話の手法です。



お申し込み

参加をご希望の方はメールかFAX、または電話にてお申し込みください。下記の必要事項を右記までご連絡ください。

【必要事項】
①氏名 ②連絡先(電話番号/E-mail) ③年齢 ④性別 ⑤参加日
【申込締切】5月20日(木) 17:00まで

【申込先】千曲市企画政策部総合政策課
☎026-273-1111(内線4131)
FAX 026-273-8787
✉seisaku@city.chikuma.lg.jp

・新型コロナウイルス感染症対策のためマスクの着用と事前の検温をお願いします。また、当日体調が悪い場合は参加しないようお願いします。
・ワークショップは、新型コロナウイルス感染症対策として検温を行い、可能な限り密にならないように実施する予定ですが、開催時期の県及び市の感染拡大状況によっては中止、または延期する場合がありますのでご了承ください。

第1回まちづくりワークショップ

1. 開催概要

【日時】5月29日土曜日（13:00 開場）13:30～16:30

【テーマ】「千曲市の良いところや魅力に気づいてみよう！」

【参加人数】48名

【プログラム】① 総合計画について説明

② ワールドカフェの説明

③ グループディスカッション

1ラウンド：千曲市のいいこと・いいひと・いいところを教えてください

2ラウンド：前テーマのグループ間での情報交換

3ラウンド：いいこと・いいひと・いいところを伸ばすには、どうしたら

いいでしょうか

④ まとめとグループ発表（全体共有）



写真－グループディスカッション



写真－グループ発表



写真－市長と記念撮影

2. 話し合いの内容

3ラウンド形式のグループディスカッションは、各参加者がまとめシートに記入して話し合いの内容をまとめた。まとめシートを分類して分析した結果は次のとおりである。

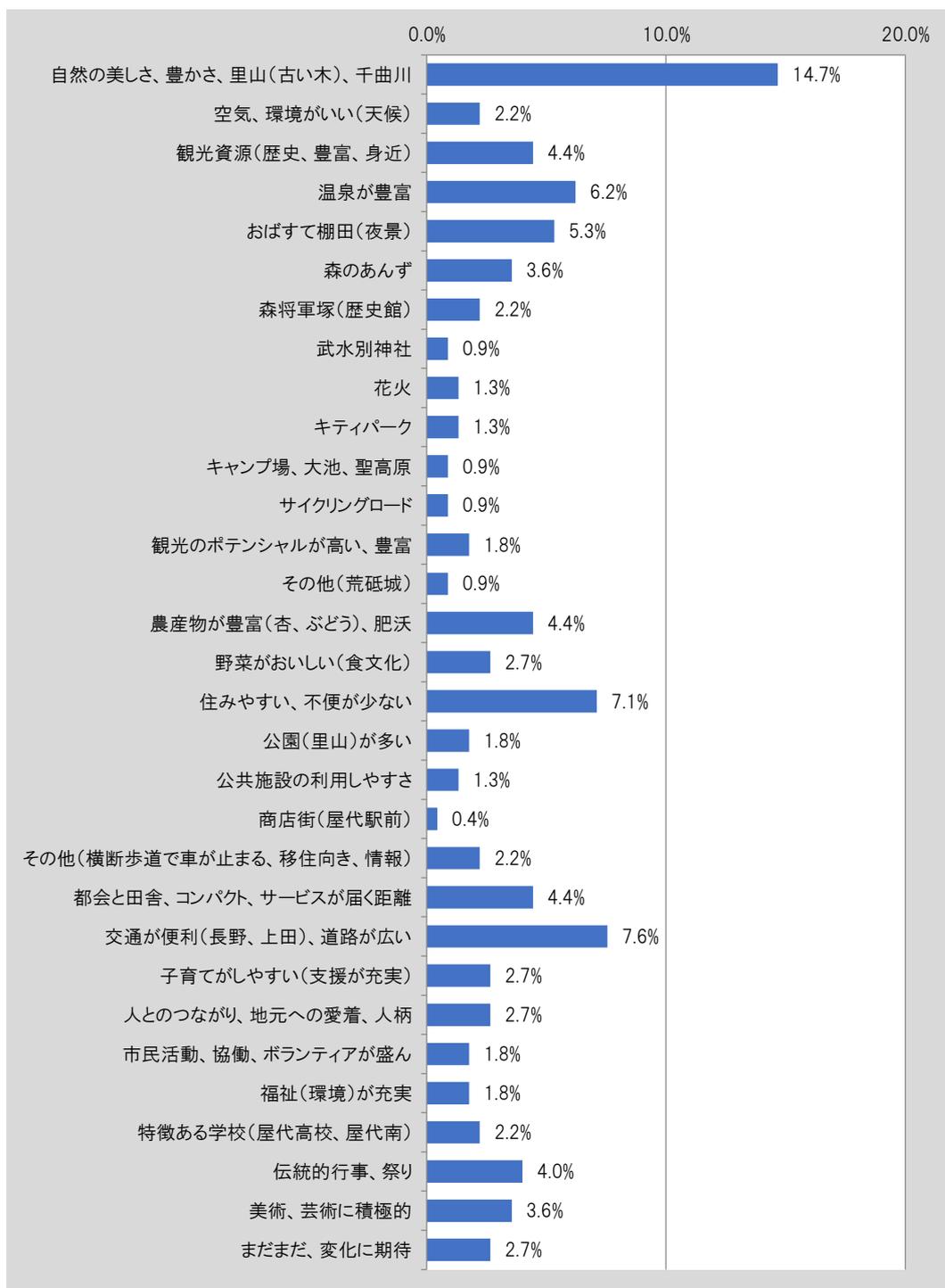
問：千曲市のいいこと・いいひと・いいところを教えてください

		回答項目	意見数	構成比	テーマ番号
1	自然	自然の美しさ、豊かさ、里山(古い木)、千曲川	33	14.7%	①
2		空気、環境がいい(天候)	5	2.2%	①
3	観光資源	観光資源(歴史、豊富、身近)	10	4.4%	②
4		温泉が豊富	14	6.2%	②
5		おばすて棚田(夜景)	12	5.3%	②
6		森のあんず	8	3.6%	②
7		森將軍塚(歴史館)	5	2.2%	②
8		武水別神社	2	0.9%	②
9		花火	3	1.3%	②
10		キティパーク	3	1.3%	②
11		キャンプ場、大池、聖高原	2	0.9%	②
12		サイクリングロード	2	0.9%	②
13		観光のポテンシャルが高い、豊富	4	1.8%	②
14		その他(荒砥城)	2	0.9%	②
15	農産物	農産物が豊富(杏、ぶどう)、肥沃	10	4.4%	③
16		野菜がおいしい(食文化)	6	2.7%	③
17	暮らし	住みやすい、不便が少ない	16	7.1%	④
18		公園(里山)が多い	4	1.8%	④
19		公共施設の利用しやすさ	3	1.3%	④
20		商店街(屋代駅前)	1	0.4%	④
21		その他(横断歩道で車が止まる、移住向き、情報)	5	2.2%	④
22	交通便利性	都会と田舎、コンパクト、サービスが届く距離	10	4.4%	④⑤
23		交通が便利(長野、上田)、道路が広い	17	7.6%	⑤
24	子育て	子育てがしやすい(支援が充実)	6	2.7%	⑥
25	つながり	人とのつながり、地元への愛着、人柄	6	2.7%	⑦
26		市民活動、協働、ボランティアが盛ん	4	1.8%	⑦
27	福祉	福祉(環境)が充実	4	1.8%	⑧
28	教育	特徴ある学校(屋代高校、屋代南)	5	2.2%	⑨
29	伝統芸術	伝統的行事、祭り	9	4.0%	⑩
30		美術、芸術に積極的	8	3.6%	⑩
31	その他	まだまだ、変化に期待	6	2.7%	
		意見総数	225	100.0%	

意見内容を分析すると、下記の10テーマに分類することができる。話し合いでは、初めに観光資源などの意見が多かったが、話し合いを進める中で「住みやすさ」「子育てのしやすさ」「市民学習、子供の教育」などの意見に展開する場面が見られた。

- ① 自然が美しい・豊か
- ② 観光資源のポテンシャルが高い
- ③ 野菜(農産物)がおいしい・豊富
- ④ 住みやすい

- ⑤ 交通の便利さ
- ⑥ 子育てがしやすい
- ⑦ 人とのつながり、市民活動、協働が活発
- ⑧ 福祉が充実
- ⑨ 市民学習、子供の教育が大切
- ⑩ 美術・芸術・伝統行事に積極的

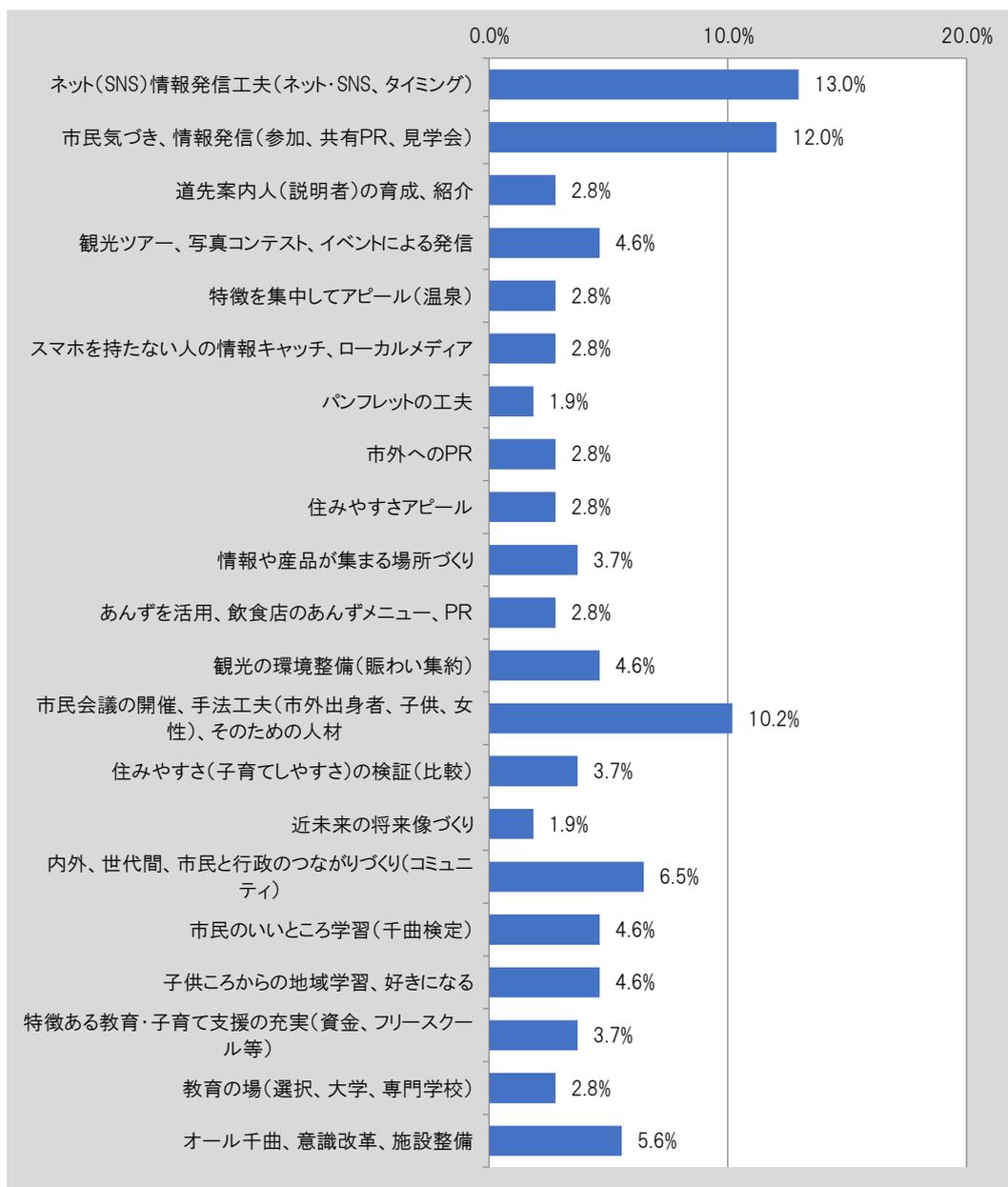


問：いいこと・いいひと・いいところを伸ばすには、どうしたらいいでしょうか

		回答項目	意見数	構成比
1	情報発信	ネット(SNS)情報発信工夫(ネット・SNS、タイミング)	14	13.0%
2		市民気づき、情報発信(参加、共有PR、見学会)	13	12.0%
3		道先案内人(説明者)の育成、紹介	3	2.8%
4		観光ツアー、写真コンテスト、イベントによる発信	5	4.6%
5		特徴を集中してアピール(温泉)	3	2.8%
6		スマホを持たない人の情報キャッチ、ローカルメディア	3	2.8%
7		パンフレットの工夫	2	1.9%
8		市外へのPR	3	2.8%
9		住みやすさアピール	3	2.8%
10		情報や産品が集まる場所づくり	4	3.7%
11	資源活用	あんずを活用、飲食店のあんずメニュー、PR	3	2.8%
12		観光の環境整備(賑わい集約)	5	4.6%
13	協働対話	市民会議の開催、手法工夫(市外出身者、子供、女性)、そのための人材	11	10.2%
14		住みやすさ(子育てしやすさ)の検証(比較)	4	3.7%
15		近未来の将来像づくり	2	1.9%
16	つながり	内外、世代間、市民と行政のつながりづくり(コミュニティ)	7	6.5%
17	教育	市民のいいところ学習(千曲検定)	5	4.6%
18		子供ころからの地域学習、好きになる	5	4.6%
19		特徴ある教育・子育て支援の充実(資金、フリースクール等)	4	3.7%
20		教育の場(選択、大学、専門学校)	3	2.8%
21	その他	オール千曲、意識改革、施設整備	6	5.6%
		意見総数	108	100.0%

意見内容を分析すると、下記の6項目に分類することができる。「情報発信・共有のあり方」の意見(活動を通じた情報共有や人材の育成)が最も多く、協働対話の手法(市民会議の継続など)、市民や子供の教育などについても熱心に議論されていた。

- ① 情報発信
- ② 資源活用
- ③ 協働・対話手法
- ④ つながりづくり
- ⑤ 教育
- ⑥ その他



第2回まちづくりワークショップ

1. 開催概要

【日時】 6月19日土曜日（13:00 開場） 13:30～16:30

【テーマ】 「こんな千曲市にしたい！」

【参加人数】 43名

【プログラム】 ① ワールドカフェの説明

② 前回のおさらいとテーマ発表

③ テーマ別グループの募集（席替え）

④ グループディスカッション

1ラウンド：各テーマについて、もっと具体的に？もっと良くするには？
などを深ぼりしてみよう

2ラウンド：テーマについて、他のテーマとのつながりを見つけてみよう

3ラウンド：テーマの近未来の物語をつくろう

④ 物語発表（全体共有）



写真－近未来物語の発表



写真－参加者の集合写真



写真－グループディスカッション

2. 話し合いの内容

関心があるテーマ毎にグループに分かれ、前回と同様に3ラウンド形式のグループディスカッションを行った。テーマについて「もっと具体的に、もっと良くするには」などを深ぼりし、最終的にテーマの近未来の物語をつくり全体グループの発表を行った。発表後は、一人当たり3ポイントを持ち、共感する近未来物語に投票「いいね！」を行った。テーマ別の近未来物語の「いいね！」数と内容は次のとおりである。

テーマ別近未来物語のキャッチフレーズと「いいね！」数

グループ/テーマ	キャッチフレーズ	いいね！
A 自然が美しい・豊か	「見よう・知ろう・考えよう！」	★★★★★★ (6)
B 観光資源のポテンシャルが高い	「心地良い風を感じる新しい千曲市」	★★★★★★★★★★ (9)
C 野菜（農産物）がおいしい・豊富	「楽しい農活」	★★★★★★★★★★ (8)
D 住みやすい	「屋代駅と千曲市役所はつながっていた」	★★★★★★★★★★ (9)
E 住みやすい	「人と環境にやさしい町千曲市」	★★★★★★★★★★★★★★ ★★★★★★★★★★ (18)
F 交通の便利さ	「誰一人取り残されない公共交通」	★★★★★★★★★★★★★★ ★★ (12)
G 子育てがしやすい、福祉が充実	「誰もの居場所がある街」	★★★★★★★★★★★★★★ ★ (11)
H 人とのつながり、市民活動、協働が活発	「ウェルカム千曲市」	★★★★★★★★★★★★★★ ★★★★★★ (16)
I 人とのつながり、市民活動、協働が活発	「女性が主役になる環境」	★★★★★★ (5)
K 市民学習、子供の教育が大切	「他市他県にない多様な教育環境を求めて」	★★★★★★★★★★★★★★ ★★★★★★★★★★ (18)
L 市民学習、子供の教育が大切	「U ターンしてきたママ驚く！」	★★★★★★★★★★★★★★ ★★★★★★ (16)

※グループのテーマには、重複したテーマを

テーマ別近未来物語の共感度は、「他市他県にない多様な教育環境を求めて」と「人と環境にやさしい町千曲市」についてが18ptで最も多い。教育は子どもの視点だけでなく、大人の学びが含まれる。これら近未来物語は、「ウェルカム千曲市」や「誰もの居場所がある街」にもつながっている。

話し合いの中で出た代表的なキーワードは、「多様な教育環境」、「リカレント教育」、「ちくまコネクト」、「居場所のある街」、「エコに力を入れた千曲市」、「誰一人取り残されない交通」、「新しいスタイルの農業・見せる農業」、「自然を認識する体験」、「サイクリング」、「女性のちから」などがある。

- 小学生などの遠足（里山）
- 千曲市の自然PR

【その他キーワード（意見）】

- 千曲市民に対するイベント、歴史ツアー（古代→平安→歴史）、見学ツアー実施
- 子供に対する体験イベント、小中学校とのイベント、自然を楽しむイベント
- フォトコンテストの実施
- ミズベリング（新しい水辺の活用の可能性を切り開くための官民一体の協働プロジェクト）
- 情報の発信（市民に対するPR活動、学校の遠足などで自然体験を通して情報発信、Instagram活用、道の駅）
- 二次交通の必要性
- 千曲川の清掃、ジャコウアゲハの保護（市、県）
- 米のブランド化
- 更級の山、登山道の整備、森將軍塚古墳眼下の田んぼを残す、里山、あんず、山城
- 湧き水（棚田）、沢、滝など小さな場所

心地良い風を感じる新しい千曲市

【いいね!】★★★★★★★★★ (9)

【近未来の物語】

タイトルは『心地よい風を感じる新しい千曲市』です。『君の名は。』みたいなアニメの映像を思い浮かべながら聞いてほしいのですが、高校まで千曲市で生まれ育った私は千曲めぐみ。上京して大学卒業後そのまま就職しました。30歳手前で千曲市に U ターンしようかどうか悩んでいるところです。

かつては田舎が退屈で都会に憧れました。市内にあるものと言えば田んぼや川、狭い人間関係から解放されたかったのです。10年が経ち、コロナをきっかけに在宅ワークがすっかり定着しました。東京に居続けることにも疑問を感じるようになってきました。

久しぶりに帰郷するとサイクリストの多さに驚きました。若者や親子連れが網目状に張り巡らされたサイクリングロードを走っている

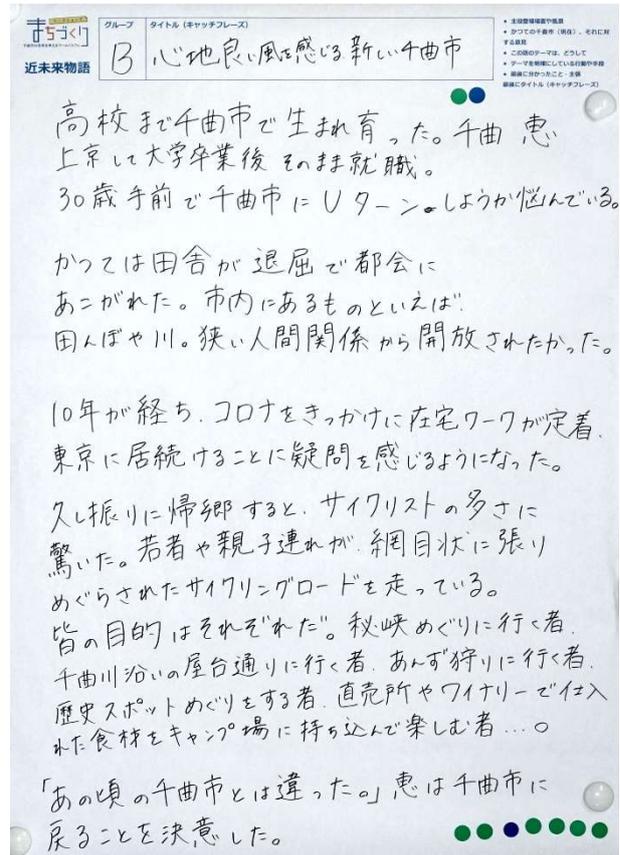
ではないですか。皆の目的はそれぞれです。秘境巡りに行く者、千曲川沿いの屋台通りに行く者、あんず狩りに行く者や、歴史スポット巡りをする者、直売所やワイナリーで仕入れた食材をキャンプ場に持ち込んで皆で楽しむもの。あの頃の千曲市とは違った。めぐみは千曲市に戻ることを決意しました。以上です。

【将来に向けたキーワード】

- コロナ、在宅ワーク、東京に居続けることへの疑問
- サイクリスト、網目状に張られたサイクリングロード

【具体的な活動の提案】

- サイクリスト、網目状に張られたサイクリングロード



【その他キーワード（意見）】

- コンパクトな地形をいかす、点と点を結ぶ、グリーンツーリズム、ミズベリング
- サイクリング（サイクリングロード）、バスツアー、ウォークラン、観光客の足（インバウンド）、温泉
- 子供向け教室、大人になっても楽しく学習
- 箱モノより体験、フリースクール、つながり
- 歴史、観光資源と歴史、古墳、山城（屋代城）、お寺、武水別神社、荒砥城、街並み
- 伝統だけでなく未来思考
- おばすて、里山、自然資源、田舎らしさ
- 田んぼの中のキャンプ場、秘境ツアー、源流・滝・山城、大池キャンプ場
- イベント、なぞとき、ニジマス放流（戸倉千曲川緑地公園）
- 観光×農産物、地域の人々が楽しく暮らす、食やおみやげをつながる、もうちょっとわかりやすいパンフレット
- 食、ブルワリー、ワイナリー
- SNS 情報発信

C 野菜（農産物）がおいしい・豊富

キャッチフレーズ

楽しい農活

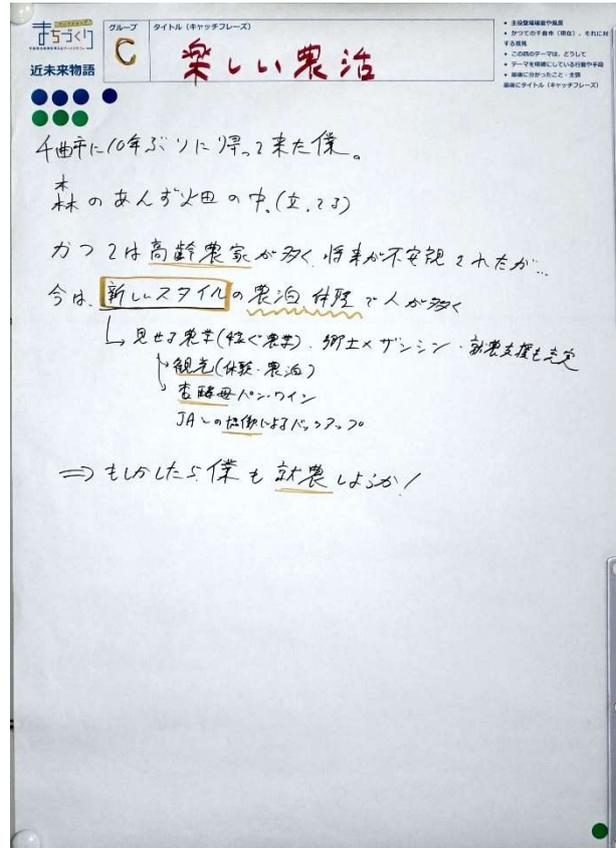
【いいね!】★★★★★★★ (8)

【近未来の物語】

『楽しい農活』というテーマで書かせていただきました。主人公の僕は千曲市に10年ぶりに都会から帰ってきて、森のあんず畑に立っています。

かつては高齢農家が多く将来が不安視されましたが、今は新しいスタイル。例えば、観光と農業。新しいものを組み合わせた斬新な産業。そして就農支援も充実しています。そして見せる観光はさらに言えば観光体験、農学を通して実際に体験する農業。新しい農産物。そしてJAの協力によるバックアップを統合して新しい農業スタイルが完成していました。

そして主人公はそれに惹かれ、僕も就農しようかと思立ちます。以上です。



【将来に向けたキーワード】

- 新しいスタイルの農業、見せる農学（稼ぐ農学）、郷土×斬新
- 高齢農家、将来の不安視、若者の農業へのいざない

【具体的な活動の提案】

- 新しいスタイルの農伯体験
- 就農支援の充実
- 見せる農学→観光（体験・能伯）、杏酵母パン・ワイン、JAとの協働によるバックアップ

【その他キーワード（意見）】

- 郷土×斬新、料理、屋代南高校
- 見せる農業～観光資源、稼ぐ、物産

- 小規模農業、有機農業、地産地消、温暖化の先取り
- 農→食（おやき、杏パン、うどん）、給食への活用
 - 観光（河川、体験農伯）、農業体験、千曲川沿いでレンタルサイクリング
 - 農業（電子農業→試せる・個人農地活用、自分で食える、空き家、テレワーク）
- パン、おやきピザ（フランス風）、完全食（栄養バランス）、小川村との相互連携
- 地物（玉ねぎ、あま 70）のブランド化
- 温暖化させない生活を発信
- 農家のコミュニティ
- 交通を活かす、土地代の安さ、農業バンク（土地）

D 住みやすい

キャッチフレーズ

屋代駅と千曲市役所はつながっていた

【いいね!】★★★★★★★★★ (9)

【近未来の物語】

タイトルは『2030年屋代駅と千曲市役所は繋がっていた』です。登場人物は千曲市に住むAさん30代男性です。

2030年千曲市。10年前と随分変わったなあ。10年前はどんな感じだったかな。確か国道は歩道もなくて危なかったし、バスの本数も少ないし全然走っていない。車がメインの生活だから便利と言えば便利だけど高齢者には大変かな。

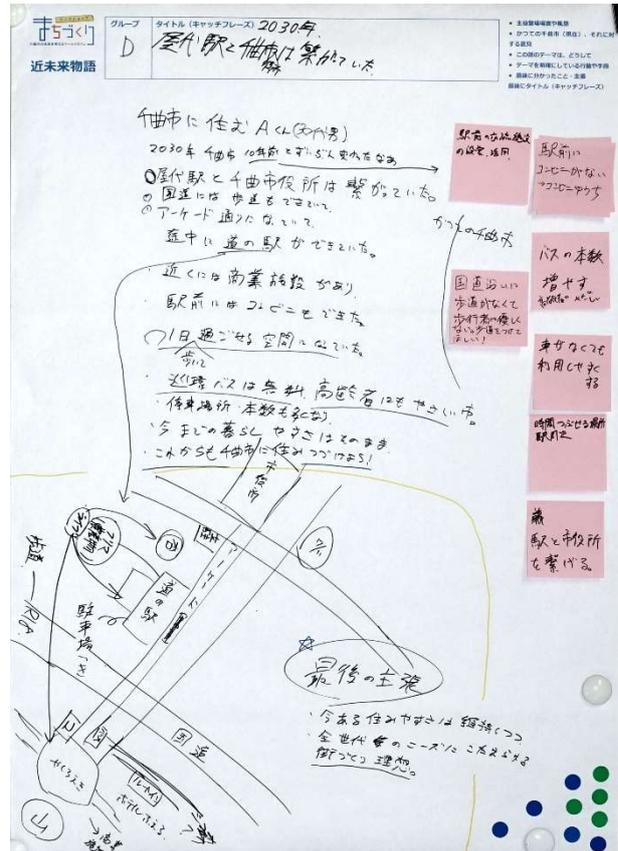
時はもう2030年。屋代駅を出るとそこはアーケード通りになっていて、千曲市役所と繋がっていた。屋代駅から千曲市役所の間には道の駅ができていた。道の駅では様々なイベントも行われ、千曲市役所に用事がない人でも、屋代駅を降りそのアーケードを一日かけて楽しめる空間になっていた。

また、循環バスは無料になっており高齢者にもやさしい。駐車場所も本数も多くなっており、全世代の方が暮らしやすい空間になっていた。30代男性のAさん、これからも千曲市に住み続けようと決意した。

というストーリーで、何が言いたいのかというと、このグループは若い人が集まったのでぶっ飛んだ意見がたくさん出たのですが、今ある千曲市の住みやすさは維持しつつ、全世代のニーズに応えられるようなまちづくりを今後理想とし、つくっていったらいいのではということです。

【将来に向けたキーワード】

- 今の住みやすさは維持、全世代のニーズに応えられる街づくり
- 屋代駅と市役所を結ぶ通りの楽しい空間づくり



【具体的な活動の提案】

- アーケード通り（解釈：歩行者にやさしい通り）
- 道の駅（解釈：情報やモノが集約する場所）、コンビニ
- 駅前に交流施設（居場所づくり）
- 利用しやすいバス（停留所、本数）

【その他キーワード（意見）】

- 国道の歩道設置
- 車が無くても利用しやすいまち
- 高齢者にやさしい市

E 住みやすい

キャッチフレーズ

人と環境にやさしい町千曲市

【いいね!】★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★ (18)

【近未来の物語】

E グループは住みやすさということでディスカッションしまして、タイトルは『人と環境にやさしいまち千曲市』です。

主役は高校卒業後都会の大学に行き、10年後帰郷した若者という設定にしました。かつての千曲市はどうしても若者が外に出てしまっていて、若い力が不足しているまち。お店も少なく若い人たちが集まれる場所がないまちでした。

そこに10年後帰ってきたら千曲市はエコに力を入れて自然エネルギーを重点に使用するまちに変わっていました。例えば風力発電や太陽光を使って市営の発電所をつくり、自給自足でエネルギーをつくれるようになっていました。そこからお店なども増えていたのですが、すべて自然エネルギーを使って環境にやさしいまちへと変わっていました。

そこで実現は難しいかもしれませんが、冬の電気代がすべてタダとなっていました。エコ住宅を建てた住民やお店は固定資産税が控除されるという形になっていて、そうすると多くの方が千曲市に移住してきて人口も増え税金の収入も上がって、そうすると控除もまたできるといういいサイクルに生まれ変わった千曲市がそこにある、というストーリーになりました。以上です。

【将来に向けたキーワード】

- 千曲市はエコに力を入れて自然エネルギーを重点に使用するまち
- エコ住宅を建てた住民やお店は固定資産税が控除される→多くの方が千曲市に移住してきて人口も増え税金の収入も増えるというサイクル
- そこそこ田舎、交通の便が良い・何でもある、穏やかな人柄・助け合い



- 自然との関わり、学生や地域の人が参加しやすいイベント

【具体的な提案】

- 市全体として環境、エコへの取組み→冬の電気代がタダ、エコ住宅は固定資産税免除
- 市営発電
- 地域のつながり季節のイベント

【その他キーワード（意見）】

- 駅の近く、帰り道に立ち寄れる店や場所（行きたい店がない）
- ホットとできる土がある、家賃が安い
- 空き家や空き店舗の有効利用
- 冬が寒い、冬の電気代がタダにならないか
- 親子連れで滞在できる場所
- 公園が多く子供が遊びやすい→子育てイベント（ヒーローショー）

F 交通の便利さ

キャッチフレーズ

誰一人取り残されない公共交通

【いいね!】★★★★★★★★★★★★ (12)

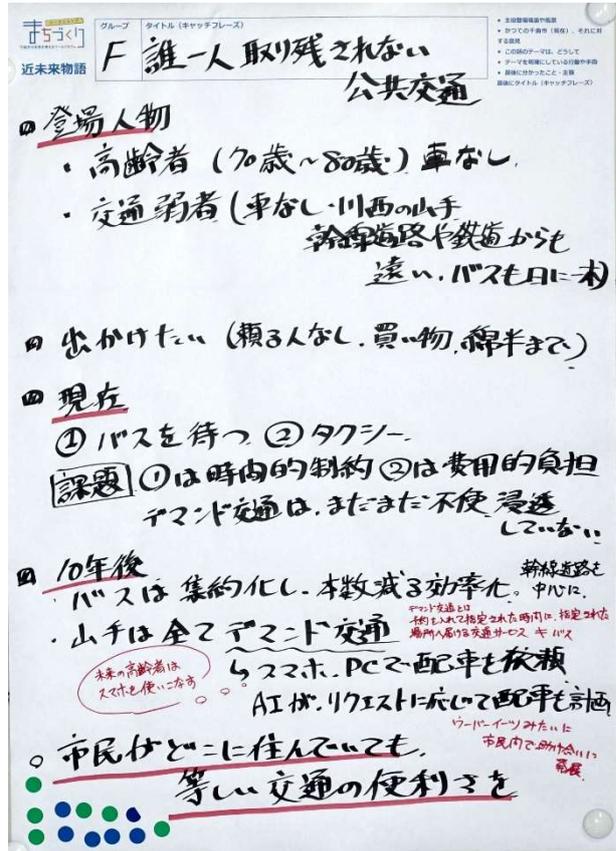
【近未来の物語】

F グループは交通の便利さというテーマで、割と早い段階で交通の便利とは何かということで、大きい道路が千曲市はいっぱいありますよね。千曲線が開設しましたし、稲荷山のほうにはバイパスがこれから抜けますし、大きい道路ができるとかならず栄えて、勝手にお店が増えて家が建って増えるのではないかとということが交通の便利さなのではということなのですが、一点交通の便利さがある一方で交通がどんどん不便になって取り残されていく地域がいっぱいあるのではないかと。そういう人たちが10年後どうしたらいいのかというところを考えさせていただきました。

テーマは『誰一人取り残されない公共交通』です。登場人物は70~80歳くらいの高齢者で、車を持っておらず、東京から田舎を好んで移り

住んだ人と考えてください。田舎がいいというくらいですから交通が不便なところに住んでいます。具体的に言うと更級地区、ああいうところは幹線道路からも外れてますし、鉄道も不便、バスも何本も来るようなところではないところに住んでいる高齢者を想像してください。その人たちは出かけたと思います。東京から来ているので頼る人もいません。買物で綿半に行きたいと思っています。現在はその人たちが買物に行きたいと思ったらバスもしくはタクシー。バスは時間の制約がすごくあります。タクシーは費用的負担が高い。今はそういう人たちに向けてデマンド交通というものがあまして、目的が同じ人たちが乗り合わせていくものですが、そういうものがあるのですが、人力だし全然浸透していないですね。まだまだ利用者が少ないし不便だなど。

こういう現状で10年度どうなっているかという話ですが、時の市役所が頑張ってバスは集約化し、幹線道路をバンバン走る代わりに山の手に一切いきませんということにします。では山の手の公共交通をどうするのかというとデマンド交通頑張ってみましょうということで、デ



マンド交通を近未来化させています。今の高齢者と 10 年後の高齢者は何が違うかという、たぶんスマホとか使いこなしているのではないかと。IT に明るくなっているという状況を踏まえたり、AI 化、DX 等で便利になっているので配車計画も今は人が考えていますが、スマホひとつでアプリ開けば勝手に AI がルートを考えてくれる世の中に 10 年後はなっているのではないかと。そうすると山の手の人もそういうものを使う需要がどんどん増えてそういうのが当たり前の世の中になっているのではないかとという無理な考えをしました。

何が言いたいのかといいますと、交通が便利な人はそのままですが、山の手の人たちも車もっていなくてもどこに住んでいても等しい交通の便利さを享受できるということで、『誰一人取り残されない公共交通』に 10 年後なっていればいいなというところです。

【将来に向けたキーワード】

- 市民がどこに住んでいても等しい交通の便利さを

【具体的な提案】

- バスは集約化（幹線道路を中心）、本数を減らし効率化
- 山手は全てデマンド交通→スマホや PC で配車を依頼、AI がリクエストに応じて配車を計画 ※未来の高齢者はスマホを使いこなす

【その他キーワード（意見）】

- 交通が便利↑↑ = 人口↑↑
- 大きな幹線道路→店が増える・便利・人が増える、企業やお金、たくさんあると便利
- 千曲線開通の効果→戸倉の人は恩恵
- 川西（更級）は不便、電車が使いにくい、人口減少につながっている
- 10 年後の交通インフラ？
- バス利用者少ない、10 年後はより高齢化、公共交通の料金高い、自動運転？、AI デマンドバス
- 千曲市の楽しさ→稼げる（SNS、クラウドファンディング）
→過程が大切、共感現象（AKB）
→興味をつなげる（体験農業、電子農業→観光につなげる）
- 「公平性」全体ではなく、個々にあったものを共有する

誰もの居場所がある街

【いいね!】★★★★★★★★★★ (11)

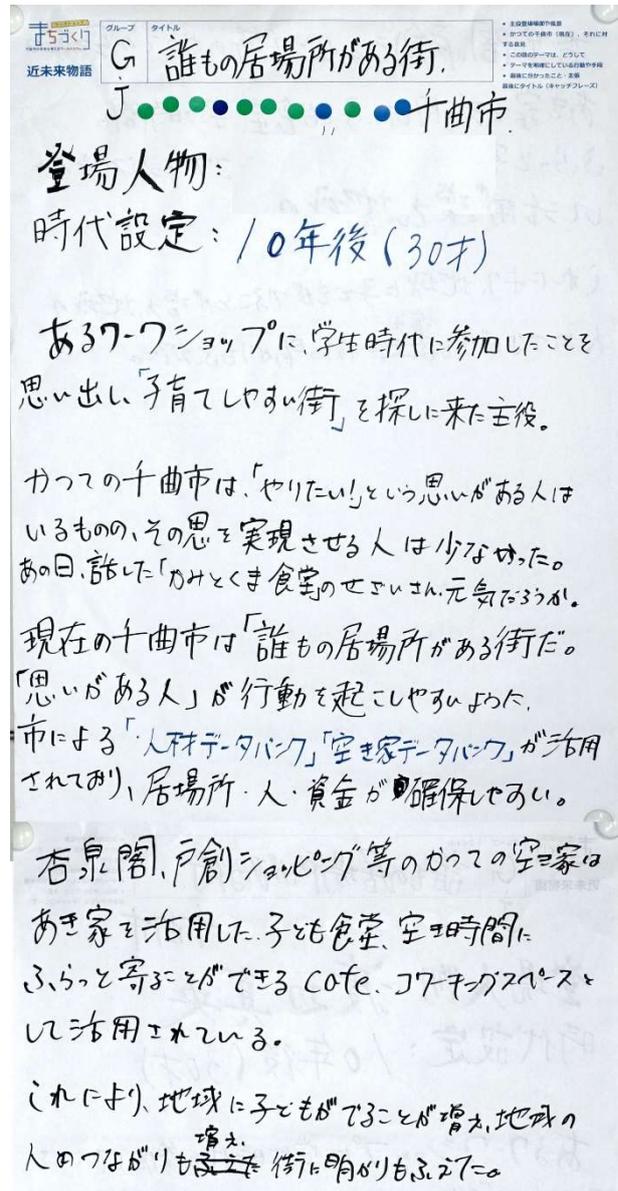
【近未来の物語】

G グループは子育てがしやすい・福祉の充実をテーマにワークショップを行いました。登場人物はワタナベマオ君です。これ自分です。時代設定は10年後ということで今20歳なので30歳になっている自分を想定した近未来物語になっています。

ある日ワークショップに学生時代参加したことを思い出し、子育てのしやすいまちを探しにきた主役。かつての市役所はやりたいという思いがある人はいるものの、その思いを実現させる人は少なかった。あの日話した上徳間食堂の〇〇さん元気だろうか。そんな思いで千曲市に行った主役。

現在の千曲市は誰もの居場所があるまちになっていました。思いのある人が行動を起こしやすいように市による人材データバンク、空き家データバンクが活用され、居場所と資金が確保しやすいようになっていました。杏泉閣、戸倉ショッピング等のかつての空き家は空き家を活用したこども食堂、空き時間にふらっと寄ることができるパフェ、コワーキングスペースとして活用されていました。

これにより地域に子どもが出ることが増え、地域の人の繋がりも増え、まちに明かりも増えました。Gグループでは子育てと充実福祉というものだったのですが、それが大きなテーマになっていて誰もが居場所があるようなまちにしたいという話になりました。そのはじめに居場所づくり、そして居場所をつくるために資金、人等の支援ができるような仕組みをつくれればいいのかということになりました。以上です。



【将来に向けたキーワード】

- 千曲市は「誰もの居場所がある街」
- 「思いがある人」が行動を起こしやすい居場所、人、資金

【具体的な提案】

- 市による「人材データバンク」「空き家データバンク」が活用
- 空き家を活用した子ども食堂、空き時間にふらっと寄ることができる cafe、コワーキングスペース

【その他キーワード（意見）】

- 居場所づくり、思いがあるけどどうすればいい、制度・支援づくり、情報発信
- ちょっと寄れる cafe、居場所、サードプレス、コワーキング、コミュニケーション×子育て
- 地域で子育てを→そのために子ども食堂（空き家利用）→地域の交流できる場、世代間のつながり
- 地域イベントが少なくなる→子どもが地域の人に関わる機会が減る
- 子どもが生まれる、生きがいやりがい、子供が来ると親が来る
- 子どもを見る目を増やすとまちが明るくなる
- 書店の2Fを夏休みの学習スペース、自由な空間（ちくま未来機構）
- 杏泉閣、戸倉ショッピングの活用

H 人とのつながり、市民活動、協働が活発

キャッチフレーズ

ウェルカム千曲市

【いいね!】★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★ (16)

【近未来の物語】

Hグループは『ウェルカム千曲市』というタイトルです。移住してきた父娘母を題材に物語を組んでみました。

この3人は2030年千曲市に移住してきました。わあ楽しそうだねえと思った直後に、公園どこにあるのかなあ、買物どうしよう、昼間ひとりぼっちだなあという悩みを抱えてしまいます。そこで「そうだ、ちくまコネクトに行こう」ということでちくまコネクトに行きます。

ちくまコネクトには行政の人や地域の人、民間の人などが集まって交流して、千曲市のあらゆる情報が集約されている場になっていました。お母さんはママ友をつくったりとか、娘さんは地域のおじいちゃんおばあちゃんに世話してもらったりして、千曲コネクトの中には困ったことは自分たちでトライして行動する風潮が流れるようになっていきます。千曲コネクトはいろいろな情報を発信してもっともっと地域の人が集まる空間になっていきます。

最終的にはお父さんと娘さんとお母さんは地域の人々の中に溶け込んで、地域活動を行ったり子どもがいっぱい集まって娘さんにも友達がいっぱいできる空間になってハッピーエンドということです。以上です。

【将来に向けたキーワード】

- 地域、世代を超えてつながりあえる「まち」
- 集まる、つながる「場所」づくり
- 住み続けられる「まち」が線から面へ



【具体的な提案】

- ちくまコネクト→行政の人や地域の人、民間の人などが集まって交流して、千曲市のあらゆる情報が集約されている場

【その他キーワード（意見）】

- 助け合いのしくみ、協働の精神（協働が大切）、グループ上でのつながり、いろいろな活動を共有できるしくみ
- 若い人が興味をもつきっかけ
- 社会が個々になっている、人とのつながり、ずっとここで暮らしたい

I 人とのつながり、市民活動、協働が活発

キャッチフレーズ

女性が主役になる環境

【いいね!】★★★★★ (5)

【近未来の物語】



タイトルは『人とのつながり、市民活動、協働が活発』というテーマで、キャッチフレーズとしては活動したい人が生き生きとやれるということで考えました。いろいろな話ができましたが、主役を子どもにしようかという話もできましたが、女性にしてみました。

今は女性が主役になれる環境が少ないのではないかという話があって、もっと常会の集まりとかいろいろな場面で女性の意見がもっと出て活躍していけばいろんなところに派生するのではないかと話ができました。女性の活躍の場を広げたいということと、妊娠出産となると周りからの視線が気になったりするところにあたたかい目が今はまだ少ないのではという話がでて、仕事と育児のどちらかを選ばなくてはいけない社会というのが現状としてあるのではないかと。

10年後どうなっていてほしいかというところで、もっと女性の力が発揮できる社会になってくれば嬉しいなと話ができました。具体的には妊娠出産となったときに、子育ても仕事もどっちもやりたいという風に、両方手にしても良いと思える女性に対する気持ち的な学びや教育があってもいいのではないかとということと、自分がこうしたい、こういうことができる市で

あってほしいというのが 10 年後のこの市のなあってほしい姿です。我慢するのではなくて助け
てほしいという声をあげれば助けてくれる人がいる市であってほしいということで、家事子育
てをヘルプしてくれる男性がこれからもっと増えればいいなという話ができました。

今回は女性を主役にしてお話させていただきましたが、男性でも移住してきた方でももっと
いろんなことをやりたいと思っている方が、こういうことできる方が近くにいないからどうし
ようと思っている方もきっといると思うので、そういう方を含めて活動したい人が生き生きと
活動できている千曲市に 10 年後なっていればいいなという話がありました。以上です。

【将来に向けたキーワード】

- もっと女性の力が発揮できる社会になってくれば嬉しい
- “自分がこうしたい”ができる千曲市
- 助け合いができる千曲市（ヘルプしてくれる男性）

【具体的な提案】

- 市民会議の継続（常会・テーマ単位）→対話による協働

【その他キーワード（意見）】

- まだ女性が主役になる環境はない
- 女性にしわ寄せしない、女性も表に出る、男性の理解
- 地域での教育、みらい塾、おじいちゃん・おばあちゃんとのつながり、子どもたちの探
求心、やりたい知りたいことを育てる（伝統行事）
- コミュニティセンターの重要性、会場は空き家利用がいい！
- 道路の幅が広すぎて交流の場が少なくなっている、人が歩いていない

K 市民学習、子供の教育が大切

キャッチフレーズ

他市他県にない多様な教育環境を求めて

【いいね!】★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★ (18)

【近未来の物語】

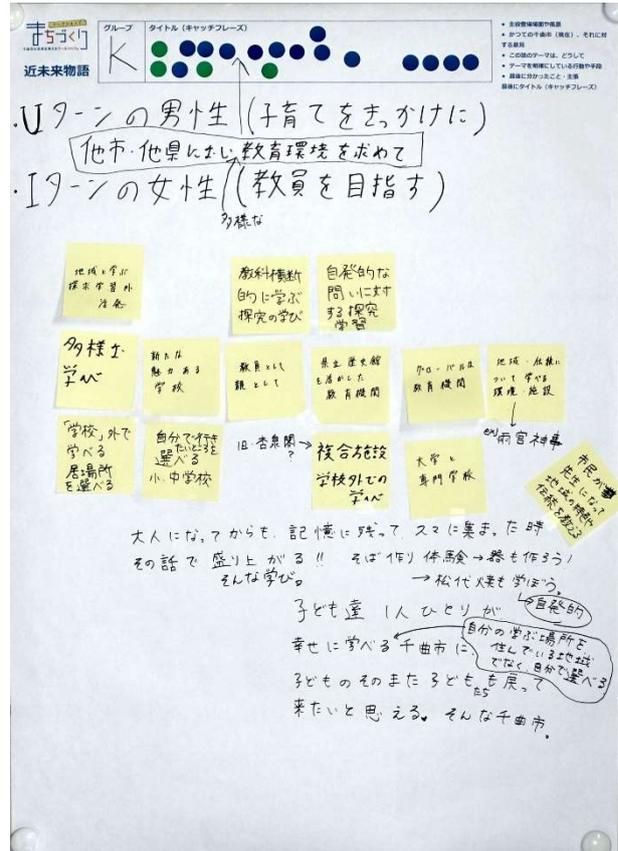
K グループは子どもの教育が大切ということで話し合いをしました。設定はうちの息子が3年生、6年生になるので、その子たちが大体20代の半ばくらいになって、自分の子どもをまた千曲市で育てたいなという気持ちになって他県から帰ってくるという設定です。もうひとりの主人公はIターンの女性が他県から千曲市の魅力的な教育を求めて、教員を目指しているのですが、魅力的な教育を子どもたちに与えたいという立場で千曲市に移住してくるというストーリーがはじまります。

キャッチフレーズとしては、『他市他県にない多様な教育環境を求めて』ということで千曲市は教育が魅力的なのでいろんな人が集まってくるという設定です。どんな教育が魅力的なのかいろいろ考えてみましたが、例えば地域で

特色のあるお祭りがあったりします。そういうことも子どもたちが探究的に地域の人に教えてもらったり探究したりという学びができたり。あとは旧杏泉閣にジムがあったり食堂があったりする複合的な施設があるなかにフリースクールみたいなものができて、学校外で学びをする子がいたり、自分で行きたいところを選べる小中学校があったり。あとは市民が先生になって子どもたちに地域の特色や伝統を教えることができるということが千曲市の教育になっています。お話の中でそばづくり体験をしたことがあるという方がいました。そばづくりをするにあたって、いろいろ失敗しながらなんとかそばをつくることになって、そうしたら器もつくってみたいという話になって、皆で松代まで行って松代焼を学ぼうといった。

そういうような自発的な自分たちの学びを考えていけるような学校であって、そういうことを大人になってからも記憶に残っていて、皆で久々に集まったときにその話で盛り上がるような魅力的な学びが千曲市で行われていることが理想かなと思います。

そういうことを自発的に学んだ子どもたちというのはとても心が満たされて、幸せな学びが



できるかなど。自分で学びたいことを学びたいように選んで学べるという環境を千曲市で与えられるようになっていて、子どもも、その子どもたちも戻ってきたい、千曲市で教育を受けさせたいと思えるような千曲市になっているということになりました。最後にこういう千曲市の教育ができたらいいなということを考えるイベントが来週の土曜日にありますのでご興味のある方はぜひご参加いただければうれしいです。

【将来に向けたキーワード】

- 『他市他県にない多様な教育環境を求めて』ということで千曲市は教育が魅力的なのでいろんな人が集まってくる
- 子どもたち一人ひとりが幸せに学べる千曲市に
- 自分で学びたいことを学びたいように選んで学べるという環境
- 子どものそのまた子どもたちも戻ってきたいと思える千曲市

【具体的な提案】

- 地域・伝統について学べる環境・施設
- 自発的な問に対する探求学習
- 教科横断的に学び探求の学び
- グローバルな教育機関
- 県立歴史館を活かした教育機関
- 新たな魅力ある学校
- 学校外で学べる居場所を選べる
- 自分で行きたいところを選べる小中学校
- 複合施設、学校外での学び

【その他キーワード（意見）】

- 自分の学ぶ場所を住んでいる地域でなく自分が選べる
- 雨宮御神事→探求学習のテーマになる（学校での新たな教育課程）、規模は小さいが新しい市民まつりは消えた
- うどん、そば→総合学習でやっているが、本来は家で父母から教えてもらった
- 地域の人とのつながり、学び→コミュニティスクール
- 探求の学び→そば作り、そば打ち体験→器をつくる→松代焼を体験
- 自分でしりたいこと（自発的な問い）を教科横断的に学ぶ教育を千曲市に

L 市民学習、子供の教育が大切

キャッチフレーズ

Uターンしてきたママ驚く！

【いいね！】★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★ (16)

【近未来の物語】

Lグループも先ほどのグループと同じで「市民学習、子どもの教育が大切」ということで、先ほどのテーブルは“子ども”という観点が中心でしたが、私達のところは大人になってからの学びというものを、こうしたまちであってほしいなあというものを話にしました。

発表資料をまとめるというよりは、LINEの画面で10年後、30ちょっとくらいママ友が話しているグループチャットというのを書きたくてそれにすごく時間を費やしてしまったので、ぜひこのあと見ていってください。今から寸劇をやりますのでよろしくをお願いします。

『グループLINE。Uターンしてきたママ驚く』というテーマでやりたいと思います。ここにいるのがJ子さんとU子さん。千曲市で育ってお子さんが3人いるJ子さん。ちょうど千曲市にUターンで戻ってきたU子さん。18歳で東京に行って子どもが1人できた状態で戻ってきたU子さんという形で寸劇をやらしてもらいたいと思います。

J子 最近千曲市に帰ってきてどう？

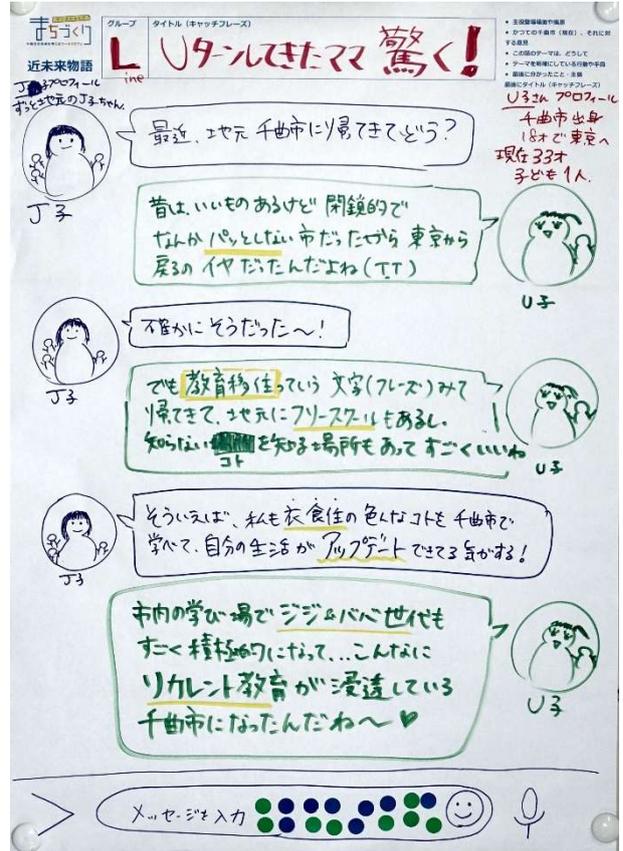
U子 昔はいいものあるけど閉鎖的でぱっとしない市だったから東京から戻るの正直嫌だったんだよね。

J子 確かにそうだった～。

U子 でも、教育移住というフレーズで調べてきたら、千曲市も地元にはフリースクールもあるし、帰ってこようかなと思って。知らないことを知る場所がたくさんあっていいなと思ってきた。

J子 そういえば私も衣食住のいろんなことを千曲市で学べて自分の生活がアップデートできてる気がする。

U子 うん。市内の学び場でじじばば世代もすごく積極的にいろんなこと学んでるし、こん



なにリカレント教育が浸透している千曲市になったんだね～。
以上です。

【将来に向けたキーワード】

- 衣食住の色んなことを学べて自分の生活がアップデートできる千曲市
- リカレント教育が浸透している千曲市

【具体的な提案】

- リカレント教育（義務教育期間や大学で学んだ後に、「教育」と「就労」のサイクルを繰り返す「教育制度」のこと）
- フリースクール

【その他キーワード（意見）】

- いいまちの匂い、いい町は生き生きしている
- 自分たちから問が出ているかどうか大切、つなげる人が必要＝地域づくり
- 学び直し&気づき
- フリースクールを千曲市に、異なるものがあってOK
- 総合学習、教科横断型の学習、ブームに乗らない
- 教育移住→地域活性化、スタディケーション→観光地で学ぶ
- コロナが終わるの待つのではなく、新しい収入源を考える（観光、旅館業）

参加者のアンケート調査

参加者には、ワークショップと併せてアンケート調査を行った。属性の他に市民会議を知った媒体や参加した動機を聞いている。下表及びグラフは第1回と第2回のアンケートを合計した結果を掲載している。

市民会議を知った媒体については「チラシ」が57.35で最も多く、次に「友人・知人」が26.8%となっている。

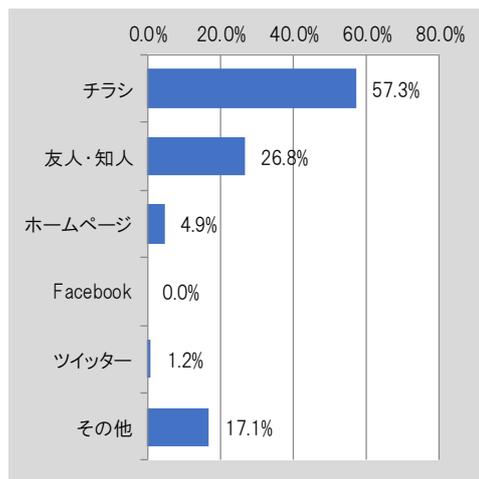
参加した動機については、「まちづくりに参加したい」が70.7%、次に「未来への想いがある」が37.8%となっている。

参加者の主な感想としては、「色々な年齢層の方とお話をして自分では気付けないような良い所や魅力をより深く知ることが出来た」、「このような市民会議を継続してほしい」、「これからの活動に生かしていけそうな情報をもらった」などの意見が寄せられた。

市民会議を知った媒体(複数回答可)

	回答項目	回答数	構成比
1.	チラシ	47	57.3%
2.	友人・知人	22	26.8%
3.	ホームページ	4	4.9%
4.	Facebook	0	0.0%
5.	ツイッター	1	1.2%
6.	その他	14	17.1%
	無回答	11	13.4%
	計	82	

※構成比は有効回答者数を母数として算出



参加した動機(複数回答可)

	回答項目	回答数	構成比
1.	未来への想いがある	31	37.8%
2.	まちづくりに参加したい	58	70.7%
3.	想いを人と共有したい	15	18.3%
4.	仲間が欲しい	10	12.2%
5.	今の千曲市に不安	13	15.9%
6.	その他	5	6.1%
	無回答	11	
	計	82	

※構成比は有効回答者数を母数として算出

